

現したことです。editorial note としてはできるだけ客観的に事実のみを書いたつもりです。[多分、福江さんはその前日の電話での福江さんご自身の発言（こちらは同意してない！）から“編集部が著者の意志に反して修正した”旨 editorial note に書かれることを期待されたのでしょうか？ しかしこれには編集部はつぎの理由で同意しなかったのです。すなわち、編集部は著者の意思に反して内容を勝手に変えたりするつもりは今までも、これからも、毛頭ありませんし、いわんやそんな事を宣言することなどは考えてもみないことです。しかし同時に、固有のスタイルを持つことを遠慮するつもりもありません。これは最も自明な編集の仕事の一つと考えてよいでしょう。福江さんのお考えと違って、これを受理後に編集が行なわない雑誌を探すことのほうが難しいのではないのでしょうか？ 逆に、それを受理前の論文に対して行ってしまう雑誌があるとしたら行き過ぎではないでしょうか？ あるいは、これが終わるまで受理は遅らせるのがよいということになるのでしょうか？ これは、イ. についての福江さんの誤解にも関係するように思われます。] 上述の手紙は、福江さんが編集の主張を容れて「著者の意思に反して……」と入れて欲しい」という前日の主張はとり下げ、適当な editorial note をつけて“Lady”を修正することにより出版を急ぐ、そのうえで後日このことについては是非を広く聞きたいと提案されたのだと編集部が受け取ったのはそう変な受け取りかたではなかったと思います。このような事情ですので「著者に断りなく内容を改ざんした」などというのは当たらないと思います、その後にあった福江さんの editorial note についてのコメントについては、8月22日の手紙との関係で編集部としては理解し難い思いでしたが（電話での私の話は注意を払われていなかった？）、その為に既に進みつつある論文処理を止めることは他の論文にも影響を及ぼし生産的でないのでそのまま進めさせて頂きました。後に残ったのは広く議論を求めるという点で、それが今度のこの討論なのだと思います。読者のご判断を待ちたいと思います。

以上福江さんの論に最低必要と思われる反論をさせて頂きましたが、一方編集長としましては福江さんの反論を招いた編集部の対応の総体（私の対応した部分を含めて）について反省するところも大いにあります。人様が一生懸命書いた論文を、主にレフェリーの判断に依るにしても、これはよし、これはよくないなどとやるわけですから反感も持たれ易いのだとは思いますが、特にわれわれが通常やっているような対人折衝をして、万一感情的になって声を荒らげたりすれば、これはとんでもない高姿勢な対応ということになってしまうし、また、意図を良く説明しきれずにステップをとれば“権柄づくで抑

え込もう”とする印象になってしまうのだと思います。投稿者の気持ちを汲んだ対応に欠けるところがあったのではないかと編集部も反省しています。

福江さんのおっしゃるように、パブリはわれわれ皆のもの（編集部のものでは勿論なく天文学会会員のもの）です。幸いそのような状況ではありませんが、もし仮に、皆がパブリを盛り立てていくのをやめてしまえばパブリは成り立たないことは明らかです。しかし、そんなことになれば天文学会会員はその独自のメディアを失って後悔することになってしまうわけで、福江さんの「ケンカをしてでも改善を求めて行こう」という態度は基本的に正しいといわざるをえません。われわれ編集理事は日々交替していくものですが、パブリ自身はこれからの“日本の世紀”にむかって息長く発展を迎えていく可能性のあるものだとすることは私は確信しております。福江さんのような苦言をふくめて、会員=読者の皆様からの建設的御提言によりパブリを前進させ、皆のものとして盛り立てて行くことを心から願います次第です。

以上

## 雑 報

### マックホルツ (1988j) 新彗星

国立天文台に入電した IAU 天文電報中央局からのテレックス、及び IAU 回報によるとアメリカの D. E. マックホルツは 27×120 双眼鏡で新彗星を発見した。発見位置と発見光度は下の通りである：

1988 年 8 月 6.470 UT

$$\alpha = 4^{\text{h}}41^{\text{m}}3, \delta = +0^{\circ}39' \quad 8.6 \text{ 等.}$$

この彗星はマックホルツにとって 4 個目に当る。

尚、国立天文台へは日本国内から、長野県の高見沢今朝雄氏 8 月 8.738 日、栃木県茂木市の谷中哲雄氏 8 月 8.746 日、静岡県寺迫正典氏 8 月 8.754 日、兵庫県豊岡市の入江良一氏 8 月 8.785 日、香川県の藤川繁久氏 8 月 8.794 日のそれぞれ独立発見の報告が届いた。天文台としては、マックホルツによる発見より約 2.8 日遅れてはいるが、独立発見であることを記して IAU 天文電報中央局へ連絡した。

天文電報中央局の計算による暫定軌道要素は下の通りである (IAUC 4637)：

$$\begin{array}{l} T = 1988 \text{ 年 } 9 \text{ 月 } 17.22 \text{ 日 ET} \\ \omega = 349^{\circ}85 \\ \Omega = 167.40 \\ q = 0.1561 \text{ AU} \end{array} \left. \begin{array}{l} \\ \\ \\ \end{array} \right\} (1950.0). \\ i = 40.63$$

(香西洋樹)